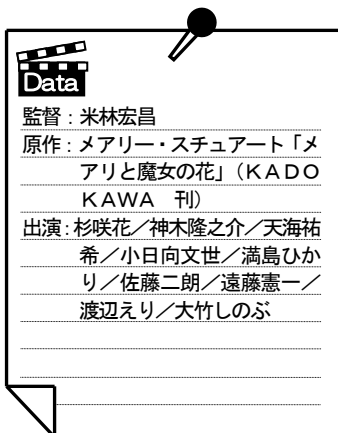




■ショートコメント■

◆2013年9月に、『風立ちぬ』（13年）（『シネマールーム31』140頁参照）を最後として「スタジオジブリ」と長編アニメの世界から引退宣言をした宮崎駿監督が、今年2月に「復帰宣言」をしたことにはビックリ！あまりアニメが好きでない私は、日本のアニメが中国を含む全世界で大ヒットしていることに少し違和感があるが、それ自体は悪いことではない。また、宮崎駿監督引退後の承継者は、『新世紀エヴァンゲリオン』（96年テレビ放送）等で知られる庵野秀明監督か、それとも『かぐや姫の物語』（13年）の高畑勲かが、注目されていたが、米林宏昌監督は？

私は宮崎駿監督の『もののけ姫』（97年）はかなり興奮しながら観たが、その後の、『ハウルの動く城』（04年）（『シネマールーム6』40頁参照）、『ゲド戦記』（06年）（『シネマールーム11』388頁参照）、『崖の上のポニョ』（08年）（『シネマールーム20』263頁参照）等は一応の義務感で観ただけだった。しかし、今回は本作をある意味、義務感で鑑賞。

◆魔女には箒が必需品でよく似合う。しかし、ハリウッドではすでに『ハリーポッター』シリーズが席卷し、箒や魔法学校をネタにした映画が蔓延してきた。そのうえ、魔女のキャラクターも『魔女の宅急便』（89年）等で既に使われている。しかし、今回新たに日本のアニメとして本作を発表するについて、何を狙ったの？

それは、スタジオジブリの伝統を引き継ぎながら、ジブリ最後の作品となった『思い出のマーニー』（14年）とは真逆のことをやろうということ。その結果、元気な女の子メアリが動き回るファンタジーにしたようだ。しかし、その成否は・・・？

◆本作については、キネマ旬報7月下旬号で、16頁から42頁までの巻頭特集を組んでいる。これは、世界への発信を続け、好評を保ち続けている日本のアニメの本流を受け継ぐものとして、本作に大いに期待しているためだが、さて本作の評価は？そしてまた、そ

の興行収入は？

◆本作にピーター役で声の演技をした神木隆之介は、安定した演技が目立っている若手俳優だが、ヒロインのメアリの声を演じたのは杉咲花。これは、本作のテーマが「魔女の花」だからそれを連想させる名前の彼女を起用したわけではなく、『湯を沸かすほどの熱い愛』（16年）で宮沢りえとの共演を果たし、第40回日本アカデミー賞で新人賞を受賞した杉咲花の近時の急成長ぶりに注目したための起用だ。そして、彼女はそんな期待に答える声の演技を十分にみせている。

しかし、全体のストーリーが私にはイマイチ。もっとも、これはアニメが好きでない私の個人的な意見なので、客観的な評価は『君の名は』（16年）の大ヒットなどの分析と併せて、しっかりと・・・。

2017（平成29）年7月13日記